

## 第2回機関リポジトリワーキング議事録

日 時：平成18年11月1日（金）15時～17時

場 所：附属図書館会議室

出席者：加藤、山下、小野、岩月、土肥、今川、大森 各委員

欠席者：松井、若尾、阿部 各委員

### 議題

#### 1. 前回議事録の確認

第1回機関リポジトリワーキング議事録について、【資料1】に基づき報告され、原案のとおり確認した。

#### 2. サーバ構築に向けての検討課題について

加藤座長から【資料2】に基づき説明があった。

大森委員から、経済学研究科より、全文データのない目次情報のみの情報も搭載して欲しい、また表示言語を英語として欲しい旨の要望が出ていることが報告された。

審議の上、以下のように確認された。

#### 0. 検討にあたって

##### 1. 登録資格者

- ・原則として教員、研究員、博士後期課程の院生を対象とする。ただし、コンテンツの種類・内容によっては、修士課程院生、学部学生、職員等の登録を認めることを想定した規程を作成することとする。
- ・コンテンツの収集の対象から、当面は修士論文を除外することとする。
- ・搭載後に登録者が離籍した場合について、搭載時に了解を得ることによって、離籍後に搭載コンテンツの削除は行なわないこととする。
- ・登録者の了解を得るためには、著作権について一見してわかるフォームの用意が必要であるとの意見があった。

##### 2. コンテンツの形式的な側面

###### 1) まとまった量の資料群を印刷媒体からスキャンして電子化ファイルにする事業を起すか否か。

- ・所蔵済みの学位論文や科研費報告書について、附属図書館のスペース削減のため電子化を検討しても良いのではないかという意見があったが、著作権処理、費用の問題から当面は電子ファイル化を行なわないこととする。
- ・電子ファイルで提供されたものを優先することとする。
- ・今後紙媒体で提供されるものについて、現行のHDAに搭載され既にデジタル化を進めているタイトルを除き、原則として当面は電子ファイル化を行なわないこととする。

###### 2) 全文データを公開しないものも登録するかどうか。

- ・目次のみでの公開でも、本学の研究業績のアピールとなること、また文献を探す上では目次のみの情報でも手がかりとして有用であることから、目次情報だけのものについても搭載することとする。

・学位論文については、国立国会図書館の博士論文書誌データベースを利用することができるため、全文データを搭載しない学位論文の登録は優先度を低くすることとする。

### 3) 音声記録、動画の収容

・優先度は低い、収集の対象から除外はしないこととする。

## 3. ユーザインタフェースに関連して

大川主査、宝来主査から【資料2-2】および【資料2-3】に基づき、先行大学の事例が紹介された。

### 1) 表現言語の優先順位

・搭載される論文は日本語のものが多くが予想されるが、海外への学術情報の発信を視野に入れるのであれば、英語をベースとしたほうが良いとの意見があった。

・可能であれば日本語・英語のもの両方が欲しいが、優先順位を付けるのであれば、英語表示を優先させることとする。

### 2) 紀要類について巻号を指定してその目次を表示する機能

・巻号を検索のキーワードとすることができるのであれば、巻号を指定してその目次を表示する機能は必要ないのではないかとの意見があったが、巻号をキーワードにすることは、導入を予定しているD Space では難しい旨、事務局から回答があった。

・機関リポジトリの利用方法として、論文タイトルや著者名で検索する、もしくは Google 等の検索エンジンからアクセスするのが一般的な方法であると考えられることから、D Space の既存の機能で対応できると考え、カスタマイズは不要とする。

### 3) ダウンロードの回数の通知、高頻度ランキングの表示機能

・今回のワーキングでは審議されなかった。

### 4) 収集コンテンツの体系

・今回のワーキングで審議したことを受け、事務局でまとめたものを次回ワーキング開催時もしくはメーリングリストにて提出することとする。

連絡事務局 情報推進課コンテンツ主担当（内線 8247）

次回開催 12月 6日（水）15時～

## 配布資料)

1-1 第1回機関リポジトリワーキング議事録（案）

2-1 サーバ構築及び初期コンテンツ収集活動に向けての検討課題

2-2 「東京大学学術機関リポジトリ UT Repository」画面

2-3 「北海道大学学術成果コレクション HUSCAP」画面